

淵江の友

vol.8

創立50周年記念号



発行日：2022年(令和4年)8月

編集発行：都立淵江高等学校同窓会

淵江高校 累計卒業者数 第48回卒業式時点(令和3年3月6日) 男子 6,543名 女子 6,978名 合計 13,521名

創立50周年記念式典動画より



第一部：50周年キャッチフレーズ公募表彰式


<https://www.fuchie.org/50th-shikiten>


50周年記念式典

日時：2021年11月17日(水)

場所：淵江高校体育館

参加者：在校生及び教職員



第二部：在校生による和太鼓演奏披露



第二部：在校生によるバンド演奏



創立50周年によせて

創立50周年記念誌に卒業生の方の寄稿文が掲載されています。

その中から5名の方の寄稿文をご紹介いたします。



PTA元会長

飯塚寿美子

(いいづか すみこ)

第24期生

そして五十周年の節目の年に親子で淵江高校に関わられたことを嬉しく感じています。

これからの淵江高校が益々発展し魅力ある学校になって欲しいと願い、いつの日か親子孫の三代で淵江高校の卒業生となれたらいいと、やさやかな夢を持っています。

淵高生の保護者となつた私はPTA活動に参加させていただきました。当時の私はPTAの存在を感じることはなく日々過ごしていましたが、毎日快適安全に過ごせていたのは陰ながら支えてくれる先生方や保護者がいてくださったからだと気付くことができました。淵江高校の生徒と保護者の両方の立場を経験できたことは大変貴重だと思っています。

三年前、娘が淵江高校を自分自身で選び入学が決まった時は心から嬉しく、胸が躍ったのを憶えています。

私が生徒だった当時にはなかつたボランティア活動に参加したり、生徒会活動に一所懸命になつている姿にやり残した当時の自分を重ねてみたこともあります。

都立淵江高等学校創立五十周年、心よりお祝い申し上げます。今から約二年前、私はいち生徒としてこの淵江高校に通っていました。当時の淵江は個性豊かな生徒が多く、先生方はとても手を焼いただうなあと今にして思います。でも親身になってくださる先生や明るく楽しい仲間達のおかげで私の高校生活は毎日が充実していました。それでも卒業後にもっとあんな事したがつたなど思い残すところもありました。

時を越えて（1997～2021）

淵江の大地から

私の人生は、淵江高校の校歌の歌詞のように「淵江の大地」からはじめました。

淵江高校での3年間、卒業式の早朝まで淵江の大地(グラウンド)に立ち、走り続けた高校生活。友・ライバルとの出会いからスタートした陸上競技・ランニングは、私を鍛え、育て、励まし続けてくれました。目標についていた中学校の体育教師・陸上部顧問となり、順風満帆で前しか見えていなかった時代から一転、自分の本当の姿に悩み苦しみ、天職から転職し、抜け殻のようになっていた時に支え励ましてくれたのは、淵江の友(ライバル)でした。彼と一緒にランニングクラブ(藍青会)を立ち上げ30年が経ちました。その友は、2012年に早世してしまいましたが、今でも私の心の中で叱咤激励してくれます。2010年に足立フレンドリーマラソンを創設してからは、ランニングが私のライフワークとなりました。ランニングを通して、多くの人たちとの出会いがあり、常に新しいエネルギーを得ています。現在は、大学で学生に体育実技を指導し、我母校である淵江高校では、陸上部コーチとして、次代を担う若者たちに「走る力」で得たものを伝えています。マラソンレースディレクターとしての活動も10年以上が経過しましたが、毎年新たな難関にぶつかり、鍛えられています。

若い頃は、ハイペースでとばし過ぎた時もありましたが、立ち止まって休憩すれば、また走るエネルギーが湧いてきます。今はもう、とばしたくてもスピードは出ません。自分のペースで一步一步進んでいくだけです。もう止めてしまいたい、逃げだしたい気持ちになった事は何度もありましたが「いき詰ったら原点にかえれ」この言葉にこれまで何度も励まされてきました。私の原点・淵江の大地から…。

高橋 敏彦(たかはし としひこ) 第3期生

仙台大学体育学部体育学科卒業、千葉県公立中学校保健体育科教員・陸上競技部顧問、エスティック運動教官、公共施設スポーツトレーナーを経て、現在は高齢者健康教室指導員、帝京科学大学非常勤講師、足立区陸上競技協会副会長、足立フレンドリーマラソン実行委員長、2019年から淵江高校陸上競技部外部コーチ



「どんなことも全力で！楽しむ！」

兎にも角にも楽しい高校生活で「どんなことも全力で楽しむ！」をモットーに過ごし、毎日学校へ行く事がワクワクの源でした。校庭で雪合戦をしたり焼き芋を焼いたり。当時流行っていたマイメロディのスリッパを上履きかわりにして教頭先生に叱られ廊下を追いかけっこしたこと、今となつては楽しい思い出です。自分だけではなく人に楽しんでもらう事が昔から大好きで、人一倍目立ちたがりのお喋り好きでした。生徒会長として携わらせて頂いた数々の行事の運営、そして全校生徒の前の挨拶も私の高校生活の楽しい要素となっていました。その頃から話をする事や言葉というもので人を楽しませることへのこだわりが生まれました。

大学卒業後に企業で営業職に就いた頃、私のプレゼンテーションを聞いてくださった方に楽しい気持ちになって貰うということをずっとと思い続けていました。そして、会社員五年目で私の人生を大きく変える現師匠の林家正蔵の落語に出会いました。「言葉や喋りというもので、沢山の人を楽しませる、こんな人になりたい！」今までずっと思い続けて来た、人を楽しませると言うことで、唯一無二の憧れの存在になり、落語家の道へと進みました。落語家になりたいと思った大きなきっかけは師匠の正蔵でしたが、その原点となる人を楽しませたいという気持ちは間違いなく淵江高校で過ごした三年間があつたからです。

私は今も毎日ワクワクしています。あの頃よりももっとワクワクしているかもしれません。どうか皆さんも素敵な未来の為に、今という時間を大切にしてください。



『淵江高校に入学して五十年、一番長かった日！』

～マラソンが私の人生を変えてくれた～

そして四十七歳の秋に、「ウルトラマラソン」に初挑戦。秋田県の角館から大館空港のある鷹巣まで百キロの超ロングランです。早朝5時にスタートし、峠越えと秋田の美しい景色に包まれた街道を縦断して、十三時間で走り抜く長い長い旅の始まりです。午前中は高低差のある山道を通り、上り坂を越えると心地よい下り坂はランナーを助けてくれます。異変を感じたのは昼を過ぎたころでした。まだ六十キロですが既に足は棒のようになだらか少しづつ前にランニングハイは三十キロぐらいまで、何も考えず義務的に止められない柱時計の振り子のようにゆっくり走るだけ。七十キロ街道には稻刈りの終えた藁が並び、遠い先に山や林が見えてはその姿を変えて行く。午後三時四時辛いと言つても止めない。ゴールを切りたい気持ちと、倒れ込んだら止められるか？車にぶつかったら終わるか？心の葛藤を聞きながら走り続ける。最後の十キロは涙を流しながら「ゴールするぞ・帰るぞ」と叫んで走ったのを覚えてています。

制限時間十三時間の二分前、泣きながらゴール。その勇姿を写真プリントされたTシャツ、それが褒美で私の宝物です。もしあのままなくなってしまったら最高の幸せ者かもしません（笑）。そのくらい「自分の極限」に触れられたことが貴重な体験となり、「一番長い日」は後の私の考え方や生き方に変化と自己満足の大きな自信を与えてくれました。最後に淵江高校の創立五十周年を皆様と共に迎えられたことを心から感謝いたします。

齊藤 弘(さいとう ひろし) 第1期生

50周年行事実行委員長・現同窓会会長。國學院大學卒業、内野株式会社で三越を担当、ブルデンシャル生命でライフプランナー、三菱東京UFJ銀行で運用相談課。現在はファイナンシャルプランナー、保護司、足立消防団、足立区青少年対策第11地区理事。



落語家 林家なな子 佐藤宏美(さとう ひろみ) 第27期生

1981年足立区生まれ。江戸川大学社会学部卒業。広告代理店勤務を経て、2010年落語家九代林家正蔵に入門、2011年林家なな子として一般社団法人落語協会前座楽屋入り、2015年ツツ目昇進、2020年生島企画室所属。雑誌▶「CanCam」、ラジオ▶「ニッポン放送 初日の出おめでたいラジオ」、「文化放送 大竹まことのゴールデンラジオ 大竹発見伝~ザ・ゴールデンヒストリー」。▶テレビ「BS日テレ BS笑点」「TBS 海老名さん家のちゃぶ台」。寄席▶国立演芸場、浅草演芸ホール、鈴木演芸場、池袋演芸場、末廣亭



彫刻家 湯川 隆(ゆかわ たかし) 第7期生

1961年 東京に生まれる
1988年 多摩美術大学大学院修了
1989年 佛教学大学文学部史学科博物館学芸員課程修了
2001年 イタリア・カッラーラ国立美術学院留学
現在は、日本美術家連盟会員(IAA)、国内のみならず海外にて制作発表している。主なコレクション●とうや湖ぐるっと彫刻公園(北海道有珠郡壮瞥町)、Museo dei Bozzetti (Pietrasanta, LU, Italia)、Museo de Art del Totima (Ibague, Colombia)、Crown Haitai Art, Valley (Korea) MUSEO CASA GRAU (Bogotá, Colombia)、都立淵江高等学校、株式会社 平成コレクション"湯川隆小さな美術館"(福島県いわき市)、東日本大震災復興祈願モニュメント(福島県いわき市豊間)、近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタン像制作設置、JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE(東京都) 他多数。尚、淵江高校へも多数寄贈。



自分に正直に生きて行くこと

周辺散歩



まるで別の駅に生まれ変わりました



※拡大版を
ホームページで
公開中！



かつての開かずの踏切



元淵江公園



淵江高校の隣組に文教大学が！



花畠記念庭園・桜花亭

Photo by 1期生 斎藤弘

幹事一同
五十周年記念式典の実行委員会委員長は同窓会会长の齊藤弘氏が務めました。記念誌作成において七名の卒業生の方に原稿を依頼し、皆さん快諾して頂きました。この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

コロナ禍、同窓会幹事会は二〇二一年二月からは、ラインにてリモート会議を実施していますが、意思疎通が難しいと感じています。総会にてお会い出来る事を楽しみにしております。

編集後記

歴代十五代校長紹介

覚えていますか？我が学び舎の伝統を支えて頂いた、懐かしい歴代校長先生の方々です。



初代校長
中村徳男先生



二代校長
根津 寛先生



三代校長
上里照邦先生



四代校長
斎藤昌次先生



五代校長
清水洋三先生



六代校長
前田忠造先生



七代校長
熊谷重明先生



八代校長
吉田崇雄先生



九代校長
須永 孝先生



十代校長
出井衛一先生



十一代校長
白水考治先生



十二代校長
佐藤喜一郎先生



十三代校長
大塚雅一先生



十四代校長
杉渕明子先生



十五代校長
高 幹明先生

直近同窓会加入状況

令和2年4月加入者	215名
令和3年4月加入者	187名
令和4年4月加入者	197名

第8回淵江高校同窓会総会 開催決定！

◆開催日：10月8日(土)午前11時 ◆場所：淵江高校3階会議室

9月25日(日)までに出席・欠席を必ずお知らせください。

●同窓会ホームページから出欠を受付けております。

<https://fuchie.org/8th-soukai>



同窓会運営会費納入のご案内

同窓会の充実と母校の発展のため、同窓会運営会費納入への皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

運営会費は2年分の納入ですので、昨年収めて頂きました方や昨年と今年卒業の方は、今年納入の必要はございません。



※同封の『振込取扱票』にて郵便局にてご納入頂くと便利です。

●『運営会費』または『寄付金』とご記入ください。

●お手数ですが『生年月日』わかれれば『何期生』をご記入ください。

●姓の変わられた方は、旧姓もご記入ください。

運営会費3,000円（2年分）

※寄付金も受け付けております。

一口 1,000円

(個人1口以上、法人・事業主3口以上)

口座番号：00110-3-569289

口座名：東京都立淵江高等学校同窓会